

伊賀の養豚場で豚熱

県、6600頭の殺処分開始

県は二十九日、伊賀市内の養豚場で豚熱（CSF）が発生したと発表し、この養豚場で飼育する約六千六百頭の殺処分を始めた。全頭の処分まで約一週間を要する見通し。県内養豚場で

県によると、この養豚場

から二十八日に「豚舎で二頭の死んでいる」と連絡があった。県の中央家畜保健衛生所による同日中の遺伝子検査で陽性が判明。国

分を完了し、九日には埋却や消毒を含めた全ての防疫措置を終える考え。県職員や自衛官ら延べ約三千人を投入する方針。

また、養豚場周辺や対応の拠点となる県伊賀庁舎などの四カ所に消毒ポイントを設置。一方、県内全ての養豚場がワクチンを接種していることから、周辺の養豚場に対する家畜の移動制限などは設定しない。

県は豚熱の対策本部員会議について、鈴木知事を本部長とする「A体制」に移行。二十九日夜の本部員会議では、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じながら作業に当たることなどを確認した。

鈴木知事は会議後の記者会見で「これまでも対策を徹底してきたが、さらに警戒や危機感を持って対応する必要があると考えてい

る。ワクチンだけでなく、さまざまな対策を進めなければならぬ」と述べた。

今回の養豚場で死んでいたのは全て生後五十日未満の子豚で、いずれも近くワクチンを接種する予定だったという。県は子豚が母猪から授かっている免疫が切れた直後に死んだ可能性が高いとみている。

（海住真之）



養豚場周辺の通行を規制する県職員ら＝伊賀市内で



本部員会議で、向田俊之連隊長（手前）に自衛隊の派遣を要請する鈴木知事＝県庁で